

令和7年度 第2回 益城町地域公共交通会議 会議結果

■日 時 令和7年8月6日（水） 開始時間 14：00
終了時間 15：30

■会 場 益城町役場会議室2－1、2、3

■出席委員 19名（代理出席4名）、欠席委員3名 ※敬称略

所属・役職等	氏 名	ご出欠
益城町副町長	濱田 義之	○
九州産交バス(株) 営業本部 営業部長	岩永 謙二	○
産交バス(株) 営業企画部長	園田 幸充	○
熊交観光タクシー(株) 統括部長	山野 一平	○
(有)光洋タクシー 代表取締役	寺本 光秀	○
(一社)熊本県バス協会 専務理事	佐々木 庸敏	○
(一社)熊本市タクシー協会 専務理事	上松 秀樹	○
益城町議会議長	榮 正敏	○
益城町区長会長	土屋 洋一	○
益城町社会福祉協議会 事務局長	森本 光博	○
益城町商工会長	住永 金司	○
熊本運輸支局 企画調整担当	椎葉 幸博	○
熊本運輸支局 輸送・監査担当	平野 光祐	○（代理）
全九州産業交通労働組合 副執行委員長	貢 博之	×
熊本県自動車交通労働組合 執行委員長	宗像 正洋	×
県上益城地域振興局 土木部長	星出 和裕	○（代理）
益城町建設課長	鶴野 雅臣	○
御船警察署長	丸山 修	○（代理）
熊本大学大学院先端科学研究部 教授	円山 琢也	○
県益城復興事務所長	奥村 知明	○
県交通政策課 課長補佐	松田 英生	○（代理）
益城町学校教育課長	内村 康成	×

■事 務 局 益城町役場 企画財政課 3名（松本課長、山内参事、山田主事）

■会議結果（概要）※別紙記録参照

- 議事（１）ＡＩ オンデマンドバス「のるーとＵＭＥらいん」本格運行について
（２）飯野地区乗合タクシー本格運行について
（３）益城・西原空港ライナーの実証運行について
（４）益城町地域公共交通計画の策定期間変更について

令和 7 年度 第 2 回益城町地域公共交通会議

日 時：令和 7 年（2025 年）8 月 6 日（水） 14：00～15：30

場 所：益城町役場 会議室 2-1、2、3

出席者：19 名（欠席 3 名）

内容：

1. 開会

2. 会長（副町長）挨拶

3. 委嘱状の交付

4. 新任委員紹介

5. 副会長指名

6. 議事

（議案第 1 号）A I オンデマンドバス「のーと U M E らいん」本格運行について

事務局より、資料 1 に沿って説明

委員）

- 利用料金が 1 k m 未満は 100 円、1 k m 以上は 200 円となっている。最も遠い停留所間は何のくらいの距離があるか。また、利用時の料金はいつわかるのか。

事務局）

- 最も遠い区間でおおよそ 5 k m 弱の距離がある。
- システムにて停留所間の利用料金が設定されており、乗車停留所と降車停留所を選択すると、自動的に利用料金が表示される。

委員）

- 予約内容の変更は可能か。

事務局）

- 予約内容を変更する場合は、予約をキャンセルしていただき、再度予約を入れる必要がある。なお、乗車後の予約内容変更は不可となる。

委員)

- 小学生の利用が多いが、通学での利用はあっているか。
- 障がい者の料金割引はあるか。

事務局)

- 小中学生の通学での利用は、原則不可としている。
- 障がい者料金割引については、産交バス等の運賃区分に準じた割引を適用している。

委員)

- 現在の乗合率について、教えていただきたい。

事務局)

- 乗合率は低い状況にあり、課題として認識している。システムの時間を変更しながら、より多くの乗合いが発生するよう調整している。

委員)

- のるーとU M E らいんの運行を受託しているが、8/5（火）の利用者は過去最多で 40 名以上の利用があっている。町からの PR もあり、地域に浸透していると感じている。

委員)

- 利用データはどのように分析・活用しようとしているのか。

事務局)

- 現在の運行状況をお知らせするために利用者数を集計している。さきほどの乗合率についても、利用データを分析し、より効率的に運行するためにシステムを調整している。
- 8/5（火）は 44 名の利用があり、過去最多の利用者数となった。夏休みに入り、小学生のみでの乗車もみられており、子どもの利用者が増加している。

委員)

- 目標を超える利用があっており喜ばしい。パンフレットもわかりやすいデザインとなっており、結果につながっていると思う。
- 今後は 10 月から本格運行とのことだが、運行経費や運賃収入を教えていただきたい。他市町村と比較すると、料金が安いように感じる。

事務局)

- 現在、事業委託で運行しているが、委託料として約 190 万円/月であり、運賃収入は約 10 万円/月程度である。町の一般会計で約 180 万円/月を負担している。

委員)

- 国庫補助の活用を検討しているとのことだったが、料金改定や他の方法も検討して、持続可能な公共交通を目指していただきたい。

委員)

- 病院やスーパーに敷地内乗り入れをする等、地域の事業者と連携して事業を実施されている例もあった。

事務局)

- 現在はＪＡかみましき益城支所の敷地内に乗り入れている。また、益城病院からもご相談をいただき、10月から停留所を敷地内に移設する予定である。
- 敷地内乗り入れにする場合は、速達性も含めて検討が必要であると考えている。

委員)

- 事前登録が必要とあるが、町民のみ利用可能か。
- このあとの議事にある益城・西原空港ライナーについては、県外の方も利用しやすい運用とし、広く周知してほしい。

事務局)

- 町民限定ではなく、だれでも利用可能である。また、ご利用にあたっては、事前に名前や電話番号等を登録いただいている。

- 第1号議案について賛成・承認

(議案第2号) 飯野地区乗合タクシー本格運行について

事務局より、資料2に沿って説明

委員)

- のるーとＵＭＥらいんと比べると、乗合タクシーは利用料金が高いが、基準は設けてあるか。

事務局)

- どちらも距離別の利用料金としている。乗合タクシーは、地域から停留所まで距離が遠いため、のるーとＵＭＥらいんより高い料金となる。また、のるーとＵＭＥらいんは、停留所間の移動であるのに対し、乗合タクシーは自宅等までお迎えに行くというも利便性が高い点も考慮して、料金設定をしている。

- 第2号議案について賛成・承認

(議案第3号) 益城・西原空港ライナーの実証運行について

事務局より、資料3に沿って説明

委員)

- 益城町から空港に行く方やテクニサーチパーク内の企業にお勤めの方を利用者として想定しているのか。
- 東海大学の学生は、町外に住んでいる学生が多いがどのように考えているか。

事務局)

- 本町から空港に行く方や空港から本町に来られる方、テクニサーチパーク内企業の従業員や東海大学に通勤・通学する方を主な利用者として想定している。
- 本事業の検討にあたり、町民や空港利用者へのアンケート調査やテクニサーチパークや東海大学における通勤・通学実態調査を実施した。アンケート調査で空港方面への利用性向上を期待するご意見が多くみられた。また、通勤・通学実態調査では、テクニサーチパークと空港をつなぐ公共交通整備のニーズがあった。これらの結果をふまえ、実施計画を作成している。

委員)

- 西原村では、親の送迎で熊本市内へ通学する学生も多い。以前の西原村地域公共交通会議で、学生の利便性向上に向け、本事業の検討していく旨の報告があったが、西原村との調整はどうか。

事務局)

- 西原村と共同で実施計画を作成し、事業実施に向け取り組んでいる。西原村の学生が通学する時刻にバスが運行していないことも考慮して便の時刻を設定している。

委員)

- この利用料金では、学生が毎日利用するには負担になるのではないか。

事務局)

- 実証運行を通して、学生の利用も注視していきたい。そのなかで利用料金が課題である場合、定期券や学生割等を検討したい。

委員)

- 空港へ行く乗客だと、大きな荷物を持って乗車することが想定される。10 人乗りの車両では乗り切れない場合の対応を確認したい。
- 利用が多くなり1 台での運行が難しくなった際はどうか。

事務局)

- 予約型であるため積み残しは発生しないが、1 台で運行可能かも実証運行を通して確認したい。
- 増車となった場合は、人件費等でさらに運行経費が必要になる。運行利用の多い曜日や時間帯は、増車して対応する等検討していきたい。

委員)

- ペットの取り扱いはどのようにされているか。また、盲導犬の場合はどうか。

事務局)

- ケージに入る大きさのペットは乗車可能としている。盲導犬については、路線バスと同様に利用者と同伴可能とする。

委員)

- 第 3 便の時間帯で黒石崎周辺は渋滞している。時刻表どおりに運行可能か確認していただきたい。

事務局)

- 今後、運行事業者に試運転を行っていただく。場合によっては、時刻表を多少調整する可能性があることをご理解いただきたい。

委員)

- 自治体間で連携して共同事業に取り組んでおり、素晴らしいと思う。
- 空港利用者をいかに益城町に呼び込むか等の需要の掘り起こしが重要になると思う。観光客にも利用してもらえるよう周知していただきたい。

事務局)

- 今後パンフレットを作成し、周知に取り組んでいく。空港等とも連携して、県外から来られた方が益城・西原空港ライナーを利用し、本町に来てもらえるよう広く周知していきたい。

委員)

- 益城町の人口は、木山交通広場より熊本市側に集中している。木山交通広場ではなく、広崎まで伸ばしたほうが多くの利用が想定される。

事務局)

- 本町では木山交通広場を交通拠点として、交通網整備に取り組んでいる。県道高森線を路線バスが運行しており、重複する運行を避けるため、木山交通広場を発着地としている。

委員)

- 夜に照明が当たらず、バス停が見えにくいという事案が発生している。今回設置する停留所には街灯があるか。

事務局)

- 街灯の位置を確認のうえ、視認性も考慮して停留所を設置したい。なお、本事業では、バス停として停留所サインの路面シート設置を検討している。

- 第 3 号議案について賛成・承認

(議案第 4 号) 益城町地域公共交通計画の策定時期変更について

事務局より、資料 4 に沿って説明

- 第4号議案について賛成・承認

7. 事務連絡等

8. 閉会

以上